

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

計画の目標	I 市民のライフステージに応じたスポーツの推進
施策名	(1) 子どものスポーツの推進
施策の内容	<p>子どもの体力は、文部科学省及びスポーツ庁が実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全国体力テスト）」によると、30年前と比較してほとんどのテスト項目において下回っている状況が続いています。この原因として、スポーツや外遊びの場所・時間の減少、急速な情報化による情報機器に接する時間の増加、行動範囲が狭まっていることなどが指摘されています。</p> <p>また、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化がおきています。そのため、スポーツをしない子どもが身近な場所で気軽にスポーツに取り組めるよう、地域と連携して、地域での子どものスポーツ活動を推進します。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>① 継続してスポーツに親しみ、スポーツの楽しさを感じながら体力づくりができる教室を泉・柴崎両市民体育館において開催します。種目は、水泳・体操・ヒップホップダンスなど、子どもや保護者に受け入れられやすく楽しめる種目を行います。</p> <p>② 普段スポーツを行っていない子どもたちのきっかけづくりとなる教室やイベント、継続して取り組む子ども向けの競技教室を開催します。陸上、野球、テニス、ソフトテニスなど子どもたちに親しみやすい種目で、初心者から経験者向けの教室まで、楽しみながら参加できるように行います。</p> <p>子どもたちにスポーツへの関心を高めてもらうため、競技体験会を行います。体育協会が主催する泉市民体育館まつりの会場等を活用し、ボルダリング※やフットサル※などの種目で指導者から指導を受けられる機会を設けます。</p> <p>③ 身近な地域でスポーツに取り組む機会を持てるよう、地区体育会に委託し、なわとび検定会などを行います。</p> <p>④ スポーツを楽しむ子どもたちの目標となる、成果を発揮する場としての大会を開催します。なわとびチャンピオン大会や立川シティハーフマラソン3kmレース・親子ペアレース、小学生クラブ交流大会を継続して開催します。</p> <p>⑤ 成長期の子どもたちを対象として、小学生姿勢教室を開催します。体を動かす機会が少なく、良い姿勢を保てない子どもたちが増えているため、良い姿勢を保つことの大切さを伝えます。</p>

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。

- ① 泉・柴崎両市民体育館で指定管理者により水泳、体操、各種ダンス等の教室を実施した。
- ② ソフトテニス教室を実施し、令和4年度は130人の参加があった。この他にも令和3年度まで、東京都のオリンピック関連補助金を生かし、子どもを対象としたジュニア体力及び競技力向上事業等を実施し、令和3年度は2,153人の参加があった。泉市民体育館 DAY では、ボルダリング、バスケットボール等子どもが参加し指導を受けながら競技体験することができた
- ③ 地区体育会に委託し、各地域の小学校などを会場にして地域スポーツ教室を実施した。令和4年度のなわとび検定には、665人の参加があった。
- ④ 立川シティハーフマラソンは2020、2021の2大会中止となったが、2022大会から再開し、2023大会では3kmと親子ペアに703人の市内小中学生の参加があった。なわとびチャンピオン大会も令和4年度3年ぶりに開催し175人の参加があった。小学生クラブ交流会はサッカーとバスケットボール併せて681人の参加があった。
- ⑤ 「小学生姿勢教室」は親子で姿勢を正す体操などを行った。令和4年度は37組80人の参加があった。

## その他の取り組み

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通して、子どもたちがさまざまなスポーツを体験する機会として立川市アクティブプラン to2020 を推進した。
- ・東京女子体育大学と連携し、オリンピックによる講座の開催したほか、体育の授業や部活動等への支援をしていただいた。
- ・学校での朝や休み時間等の継続的な運動の取り組みなど、自動・生徒の実態に応じ各校の特色のある体力向上取り組みを実施した。
- ・中学校の部活動に外部指導員を配置し、生徒への技術的な指導助言等を実施した。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 今後の課題（事務局案）

- ・子どもたちが、生涯にわたってスポーツを続けていきたいと思えるためのきっかけづくりが必要です。
- ・立川市をホームタウンとするプロスポーツチームとの連携により、スポーツとつながる機会の充実が必要です。
- ・部活動の地域移行や、地域で子どもたちのスポーツ環境をささえる人材や組織の育成が課題です。
- ・障害者スポーツを含め、多様なスポーツを知る機会が必要です。

※ 小学生クラブ交流大会…市内の小学3年生以上のチームによる、サッカーとバスケットボールの大会

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(2) 成人や子育て世代のスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>30～40歳代のスポーツ実施率が低いため、隙間時間の活用や気軽に始められるスポーツ等を推進し、スポーツ実施率の向上を図ります。また、引き続き、泉・柴崎両市民体育館で成人や子育て世代のニーズに合った各種スポーツ教室等を実施します。</p>	
<b>【取組事項】</b>	
<p>① 成人世代や子育て世代のライフスタイルに合わせたスポーツ教室を泉・柴崎両市民体育館において開催します。種目は、ヨガ・エアロビクス・バドミントンなど、多様なニーズに対応できるよう、時間設定に配慮した各種教室を開催します。</p>	
<p>② あらゆる世代が気軽に取り組めるスポーツ活動として、ウォーキングの機会を提供し、スポーツに取り組む市民の増加や体力の増進を図ります。</p>	
<p>③ 幅広い年代のスポーツ実施につながるラジオ体操事業を実施します。</p>	
<p>④ 体育協会が体育の日に泉市民体育館まつりを開催しており、この機会を活用し、スポーツ未実施者に対してスポーツを始めるきっかけとなる事業を実施します。</p>	
<p>⑤ 親子を対象にした講座「ママビクス&amp;ベビーマッサージ」を実施し、マッサージを通じた赤ちゃんとの触れ合いと、母親向けのゆったり体操を行います。</p>	
<b>具体的な取組み事項（事務事業）</b>	
<p>取組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取組み状況は以下のとおりである。</p>	
<p>① 泉・柴崎両市民体育館でヨガ・エアロビクス・バドミントン等の教室を実施した。</p>	
<p>② 市民あるけあるけ運動を実施した。令和4年度は昭和記念公園内を歩くファミリーウォークと多摩動物公園ウォークを実施し、計244人の参加があった。</p>	
<p>③ 令和3年度までは、ラジオ体操指導者講習会とみんなの体操会を実施。令和4年度からは指導者講習会のみを開催し、26人の参加があった。</p>	
<p>④ 泉市民体育館まつりは、新型コロナウイルス感染症の影響が強かった令和3年度、4年度は泉市民体育館DAYとして実施した。バスケットボールなど子ども向けの企画に子どもを連れてきた親が、他の種目で指導を受けながら体験していくなど、スポーツを始めるきっかけ作りができた</p>	
<p>⑤ 「ママビクス&amp;ベビーマッサージ」を定員や時間を短縮するなど感染症対策を講じて開催した。令和4年度は46人の参加があった。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## その他の取り組み

- ・親子向けのプログラムや託児サービスの実施等を実施し、子育て世代がスポーツに取り組む環境を提供した。
- ・市民意向調査等にスポーツの定義を記載し、日常生活の中で気軽に取り組めることもスポーツであることの周知に努めた。

## 今後の課題（事務局案）

- ・隙間時間などに気軽に始められるウォーキングやストレッチ等を、正しい方法で継続的に取り組むきっかけづくりが必要です。
- ・「する」スポーツだけでなく、プロスポーツチームの応援等、スポーツの多様な楽しみ方を提供することが必要です。
- ・スポーツを通じた住民同士の交流等により地域活性化につながる新たなスポーツの力を生かすことが必要です。
- ・年齢や障害の有無に関わらず、誰もがスポーツへの興味関心につながる情報発信が必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(3) 高齢者のスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>超高齢社会を迎え、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、「健康寿命を延ばすこと」が必要なことから、スポーツを通じた高齢者の体力づくりや生きがいづくりが求められています。このため、高齢者を対象とした事業については、そのニーズや健康状態に配慮しながら実施します。</p>	
<p>また、福祉会館等における健康づくりの場の提供などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実します</p>	
<b>【取組事項】</b>	
<p>① 市民体育館を管理運営する指定管理者と連携、協力し、いつまでも健康で暮らすために必要な体力を身に付ける筋力トレーニングや体操教室等を実施します。</p>	
<p>② 高齢者にも気軽に取り組めるスポーツ活動として、「市民高齢者2万歩ハイク」や「市民あるけあるけ運動」といったウォーキング事業を継続します。</p>	
<p>③ 「体力アップ体操教室」などの健康づくり事業を継続します。</p>	
<p>④ 「体力年齢測定会」を実施し、高齢者や高齢者世代を前にした方に、自己の健康管理や健康の維持・増進の知識を広げることに役立てます。</p>	
<p>⑤ 中高齢者のスポーツ・レクリエーションの場として、スポレクフェスタを開催し、生涯スポーツを推進します。</p>	
<p>⑥ 健康吹矢※やゲートボール、ターゲット・バードゴルフ※などのスポーツの講座を開催します。また、引き続き老人クラブ活動への補助を実施し、生きがいづくりを進めます。</p>	
<p>⑦ 年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、市民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するために、地域体操クラブと健康体操応援リーダー等派遣事業を実施します。</p>	
<p>⑧ 60歳以上の高齢者を対象に、仲間づくりや心身の健康の保持・増進、生きがいの創造を図ることを目的として寿教室を開設し、健康体操やフォークダンス等の講座を実施します。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中ででの取り組み状況は以下のとおりである。

- ① 市民体育館で高齢者向けに体操やストレッチ教室を実施した。運動強度を変え、体力のある方もない方も取り組めるプログラムを提供した。
- ② 高齢者だけではなく多くの年齢の方が参加できる「市民あるけあるけ運動」を2回実施した。令和4年度は昭和記念公園内を歩くファミリーウォークと多摩動物公園ウォークを実施し計244人の参加があった。
- ③ 「体力アップ体操教室」を実施し、令和4年度は121人の参加があった。
- ④ 「体力年齢測定会」を実施し、令和4年度は36人の参加があった。64歳以上と未満で運動プログラムを変え年齢に即した測定を行った。
- ⑤ おおむね50歳以上を対象としたスポレクフェスタを開催した。令和4年度は1,347人の参加があった
- ⑥ シルバー大学で種目を変更しながら複数のスポーツの講座を開催し、高齢者のスポーツ実施機会を提供した。
- ⑦ 庁内関係課で協力し、「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を開催し、令和4年度は26人の参加があった。この講習会で資格を取得した人が、健康体操応援リーダーになるなどして、人と人がつながる地域づくりを推進した。
- ⑧ 60歳以上の高齢者を対象とした寿教室を開催し、健康体操やフォークダンス等の講座を実施した。

## その他の取り組み

- ・ウォーキングマップを作成し市のホームページなどで公開した。
- ・コロナ禍で集団行動が難しかったため一人でもできる消火器ウォークのマップを12地区で作成し距離認定も行った。

## 今後の課題（事務局案）

- ・元気な高齢者からあまり外出を望まない高齢者まで、医療・介護との連携も含め、健康増進を目的とした「する」スポーツの参加を促す取り組みが必要です。
- ・スポーツを通して住民同士の交流が活発化し、地域コミュニティの活性化につながる取り組み等、スポーツの価値を高める取り組みの検討が必要です。
- ・高齢者がこれまでのスポーツ経験を生かし、スポーツをささえる場面に参画することができるしくみづくりの検討が必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(4) 障害者のスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>障害者スポーツは東京2020パラリンピック競技大会の開催を契機として、障害者スポーツやアスリートの活躍がメディアで取り上げられることが多くなり、認知度が向上しています。</p> <p>また、身近な場所で体験ができる機会や、泉・柴崎両市民体育館で教室を実施するなど、市民が障害者スポーツに参加できる機会が増えています。引き続き、障害者が参加しやすい施設運営や事業の実施と、障害者スポーツの理解・啓発を進めます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>① 障害者が参加できる継続した教室を泉・柴崎両市民体育館で開催します。</p> <p>② 市内各所でのイベント等の機会を利用して、障害者スポーツの紹介や体験会を開催し、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。</p> <p>③ スポーツ推進委員協議会では、障害者スポーツについての研修を重ねており、障害者スポーツイベントの運営についてのノウハウを生かし、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるイベントを開催します。</p> <p>⑥ 障害のある人とない人との交流と相互の理解を深めるために、運動会形式のスポーツ大会を実施する「立川市障害者スポーツ大会実行委員会」に負担金を支出します。障害者スポーツ大会は年1回、10月の第1日曜日に開催します。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。

- ① パラリンピアンによる教室を開催したほか、施設に訪問するスポーツ教室も行った。令和4年度は計156人が参加した。
- ② イベントでの障害者スポーツ体験は実施できていないが、体育協会に委託し、ボッチャ大会・体験会を実施し各地区体育会の方に障害者スポーツに触れてもらう機会を提供した。令和4年度は94人が参加した。
- ③ スポーツ推進委員協議会では、障害者スポーツ研修を兼ねて、イベントを実施、令和4年度は3年ぶりの開催となったが新型コロナウイルス感染症の影響により視覚障害の方と付き添いの方の2名のみ参加となった。
- ④ 「立川市障害者スポーツ大会実行委員会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度以降すべて中止となっている。

## その他の取り組み

ボッチャ用具を貸し出しており、令和4年度は延べ66セットの貸し出しを行った。

## 今後の課題（事務局案）

- ・身近な地域において障害者が気軽に参加できるスポーツ環境づくりが必要です。
- ・年齢や性別、障害の有無にかかわらず誰もが一緒に参加できるスポーツを通じて地域コミュニティの活性化につながる取り組みが必要です。
- ・障害者スポーツへの理解促進につながる情報発信が必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

計画の目標	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進
施策名	(5) 地域スポーツクラブの支援
施策の内容	
<p>市民が身近な地域で主体的にスポーツに親しむには、地域スポーツクラブの果たす役割は重要となっています。引き続き、地域スポーツクラブの活動の充実・活性化を進めるため支援を継続します。</p> <p>本市では、平成23(2011)年12月に、市内の12地区体育会が東京都から地域スポーツクラブの認証を受け、活動しています。今後は、令和3(2021)年4月から総合型地域スポーツクラブ※の登録・認証制度の運用開始が予定されているため、各地区体育会と登録・認証に向けて、具体的な支援内容等を協議していきます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>地域スポーツクラブにスポーツ教室を委託し、地域におけるスポーツ活動の促進や世代間の交流が図られるよう、地域スポーツクラブの活動を支援します。</p> <p>また、地域スポーツクラブの持続的な発展を図っていくため、質的な充実に向けた施策を検討していきます。</p>	
具体的な取り組み事項（事務事業）	
<p>取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したため、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。</p> <p>地域スポーツクラブの活動の意義からも、地域スポーツクラブが地域スポーツの担い手となり、身近な地域で誰もが参加できるスポーツとして、「なわとび検定会」、などの地域スポーツ教室を実施している。令和4年度の参加者数は、5,791人。</p>	
その他の取り組み	
<p>・立川市では12の地区体育会が地域スポーツクラブとして登録しているが、活動を継続的にできるような支援の検討が必要です。</p>	

### 【参考】

地域スポーツクラブとは、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる、身近な生活圏のスポーツ拠点です。その条件としては、①複数の種目に対応できること。②子どもから高齢者まで、初心者から競技者まで、地域の誰もが継続して活動できること。③学校体育施設や公共のスポーツ施設など活動の拠点となるスポーツ施設があること。④個々のスポーツニーズに対応したスポーツ指導が行われること。⑤地域住民が主体的に運営すること。などが挙げられます。このクラブは、子どもから大人まで、また、高齢の方や障害のある方を含めすべての人を対象としており、また運営に関しても地域住民自らが主体となっていることが特徴です。令和4年度より認証制度が開始され、登録団体が条件に合致しているか審査されることになりました。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

施策名	(6) 地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進
施策の内容	
<p>体育協会の主管による立川市民体育大会については、各競技団体が様々な競技を展開し、小学生から成人まで多くの参加者があり、順位を競うことにより競技力の向上に役立っています。近年では、地域のつながりが希薄化していることから、参加者やスタッフの確保が課題となっています。</p> <p>地域でスポーツを楽しむ市民の活動の活性化を進めるため、地域団体の主体的な活動や広域大会への出場を継続して支援します。</p> <p>また、プロスポーツ団体との連携が進んでいることや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、トップアスリートに接することができる機会が増加しています。この機会を生かし、市内競技団体と連携して、スポーツに親しむ市民のスポーツ継続へのモチベーションアップ、競技力向上につなげていきます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 地域スポーツの中核イベントとして市民体育大会を継続して開催します。広い年齢層から新たな参加者を集められるよう、体育協会と連携して、さまざまな広報媒体の活用について検討します。</li><li>② 競技スポーツに取り組む市民の目標となる都民体育大会や市町村体育大会など、広域大会への出場を支援します。</li><li>③ 地域の競技団体や地区体育会の主体的な団体運営と活性化を進めるため、団体の活動を継続して支援します。</li><li>④ 市内競技団体と連携し、市民体育館など市内のスポーツ施設利用者を対象にトップアスリートが指導する教室を開催します。</li></ol>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。

- ① 市民体育大会では地区対抗とオープン種目からなる中央大会と選手選考を兼ねて行う地区の町民運動会などからなる地区大会で構成される。令和4年度に開催された立川市市民体育大会は、中央大会と地区大会を併せて、10,513人の参加があった。
- ② 都民体育大会、市町村総合体育大会等へ選手派遣を行った。令和4年度の派遣選手は延べ739人
- ③ 立川市体育協会及び各種競技団体や地区体育会の事業への補助を実施している。令和4年度の補助対象競技団体・地区体育会は17団体。
- ④ 東京都のオリンピック・パラリンピック補助金を利用して、令和3年度まで地域の競技団体と協力してアスリートスポーツ教室を実施した。

## その他の取り組み

## 今後の課題（事務局案）

- ・社会状況や市民のニーズを捉えながら、現状の取り組みを継続していく体制の検討が必要です。
- ・各競技団体・地区体育会とともにスポーツの振興を図っているが、新たな参加者を取り込む工夫や、誰もが参加しやすい取り組みを検討していく必要があります。
- ・市民体育大会は、ニュースポーツ、障害者スポーツなども視野に入れ、市民がより参加しやすい種目、開催方法の検討が必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(7) 地域におけるスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>現在、地域では地区体育会のほかに、子ども会や青少年健全育成地区委員会、学校などさまざまな団体がスポーツ活動を行っています。このような地域団体が連携して、地域の特色を生かしたスポーツ活動に取り組むことが今後一層期待されます。</p> <p>引き続き、庁内関係課と連携し、各種団体の地域における事業展開を支援します。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>地区体育会が地域のニーズに即した内容で実施する地域スポーツ教室を引き続き支援します。</p>	
<b>具体的な取り組み事項（事務事業）</b>	
<p>取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したため、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。</p> <p>12地区体育会に「なわとび検定会」や地域のニーズに応じた教室を行う「地域スポーツ教室」を委託している。また、各地区体育会が実施する事業に備品の貸し出しを行っている。</p>	
<b>その他の取り組み</b>	
<b>今後の課題（事務局案）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通じて地域の交流やコミュニティの活性化につなげるため、地域スポーツの推進を担う各地区体育会を支援するしくみづくりの検討が必要です。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(8) ニュースポーツによるスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>ニュースポーツとは、近年新たに考案されたり、古くからある競技スポーツを変形するなどしてできた軽スポーツの総称で、子どもから高齢者まで誰でも手軽に楽しめるのが特長です。これまでも本市発祥の「ミニテニス」や「ソフトバレーボール」の普及を、地区体育会やスポーツ推進委員協議会と連携して取り組んできました。</p> <p>今後は新たなニュースポーツを提案し、年代を問わず誰でも簡単に取り組めるニュースポーツを推進し、スポーツ参画人口を増やしていきます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>① スポーツ推進委員協議会が主体となって取り組んできた、これまで市民に定着した「ミニテニス」「ソフトバレーボール」に代わる「ゴールドッチ」を推進し、体験会から大会へと移行していきます。</p> <p>② 地域でスポーツに親しむ市民の増加を目標に、地区体育会に地域スポーツ教室を委託しています。今後は「ゴールドッチ」を推進していくため、地区体育会とスポーツ推進委員を中心に、市民に浸透し定着するよう取り組みます。</p> <p>③ 体育協会は「泉市民体育館まつり」で体験コーナーを設け、多様なニュースポーツを紹介しています。この機会を活用し、多くの市民に手軽に取り組めるニュースポーツへのきっかけづくりとします。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中ででの取り組み状況は以下のとおりである。

- ① ゴールドッチは、既存のスポーツを応用できないこと、これまでの種目より若干激しいことなどに加え、体の接触があることもあり新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、地域に根付くことができなかった。体の接触がなく、運動強度も低い「モルック」がはやり始めており、体験会大会へとつなげていく予定となっている。
- ② 上記の事情もあり、地域スポーツ教室の推奨種目からゴールドッチを削除し、令和5年度時点では必須種目のなわとび検定以外は各地区の自由としている。
- ③ 泉体育館DAYでミニテニスやターゲットバードゴルフ、手の平バレーなどのニュースポーツを体験できるコーナーを設置し、市民がニュースポーツに触れる機会とした。

## その他の取り組み

## 今後の課題（事務局案）

- ・年齢や障害の有無に関わらず、誰もができるスポーツの機会創出が必要です。
- ・ニュースポーツを通じた住民同士の交流等により地域活性化につなげ、新たなスポーツの力を生かすことが必要です。

## 【参考】

「ニュースポーツ」とは、近年新たに考案されたり、古くからある競技スポーツを変形するなどしてできた軽スポーツの総称で、子どもから高齢者まで誰でも手軽に楽しめるのが特長。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(9) 立川シティハーフマラソンの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>子どもから大人まで気軽に参加できる市民マラソンとして、市民のスポーツ振興はもとより、多様な交流や健康づくりとともに、地域の活性化にもつながる立川シティハーフマラソンの充実に向け取り組みます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>スポーツの3大要素である「する」「みる」「ささえる」を包括したスポーツ大会であるため、さらなる知名度や認知度の向上を図り、救護、給水などランナーの安全・安心を中心にした大会運営を目指します。</p> <p>また、大会を通じて地域経済の活性化につながるような取組や、まちの魅力を高める取組も進めていきます。</p>	
<b>具体的な取り組み事項（事務事業）</b>	
<p>取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したため、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。</p> <p>立川シティハーフマラソン2023のエントリーは、学生選手権を含め9,548人となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつある。国営昭和記念公園の入場者数も大会の前週や翌週と比べ大幅増となっている。大会には多くの市内企業の協賛や団体、学校、企業のボランティア、プロスポーツ団体や地元企業のブース出展、クーポンによる地元企業するなど、文字通り「みる」「ささえる」を包括したスポーツ大会となっている。</p>	
<b>その他の取り組み</b>	
<p>ボランティアの他、各部署から職員の応援、警察、消防等の協力もあり、地域をあげての大会となっている。</p>	
<b>今後の課題（事務局案）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの3大要素である「する」「みる」「ささえる」を包括したスポーツ大会であるため、さらなる知名度や認知度の向上を図り、安全・安心な大会運営を継続することが必要です。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

施策名	(10) プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進
施策の内容	
<p>プロスポーツチームの試合観戦やトップレベルの選手のプレーを観ることは、市民がスポーツを通じて感動と興奮を感じ、自らスポーツに親しむきっかけになります。本市では、平成29(2017)年にアルバルク東京やTACHIKAWA DICE.EXE（立川ダイス）と、地域社会の発展及び振興を図ることを目的に相互協力協定を締結し、市内の小中学校でトップレベルの選手の指導に触れる機会が得られるなど、連携と交流を進めました。</p> <p>また、平成27(2015)年には、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と文化、教育、学術、スポーツ等の分野において、地域の発展と人材の育成に寄与するため、包括的な連携・協力に関する協定を締結し、教育をはじめとしたさまざまな行政分野で連携・協力が進みました。</p> <p>今後もプロスポーツチームや大学との連携を進め、市民にプロスポーツチームに関する情報提供やスポーツを通じた大学との新たな連携事業を検討することにより、スポーツへの関心と魅力を高めていくとともに、地域経済の活性化や観光振興、地域への愛着心の向上を図ります。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>来街者に本市のプロスポーツチームに関する情報を提供するため、観光案内コーナーなどでプロスポーツチームの情報を提供します。</p>	
具体的な取り組み事項（事務事業）	
<p>取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく、各チームも無観客開催などの対応に追われることも多かった。その中での取り組み状況は以下のとおりである。</p> <p>広報たちかわで、プロスポーツ連絡会に所属するプロチームのホームゲームの情報を掲載するほか、各チームの地域貢献活動などの情報を市ホームページで発信した。また、泉市民体育館 DAY に TACHIKAWA DICE や立川アスレティック FC の協力を得ている。また、TACHIKAWA DICE、立川アスレティック FC のホームゲームを泉体育館で開催した。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## その他の取り組み

- ・商工会議所を中心として、トヨタアルバルク東京、東京ヴェルディ、フットサルの立川アスレティックフットボールクラブ、石川ボクシング、立川競輪の6団体で構成する「立川プロスポーツ連絡会」に広報課、スポーツ振興課も出席し立川をスポーツで盛り上げようを合言葉に情報交換している
- ・東京ヴェルディ、トヨタアルバルク東京、TACHIKAWA DICE、立川アスレティックFCによる市民観戦デーにぐるりんの出演やブース出展などを行った。
- ・Bリーグ参入を契機に運営母体が株式会社化したことによるTACHIKAWA DICEとの連携協定再締結、トップチームが本拠地を完全移籍した立川アスレティックFCとの新規連携協定の締結により、トヨタアルバルク東京を加えた3チームとの連携協定、東京ヴェルディへの出資による連携によりプロチームとの連携が協会している
- ・東京女子体育大学とも連携協定を締結しており、オリンピックによる講座や部活などへの支援をしてもらっている

## 今後の課題（事務局案）

- ・庁内の関係各課と連携しながら、プロチームと地域との連携をさらに深めることで市民のスポーツを「みる」機会を増やし、スポーツへの関心を高めていくことが必要です。
- ・プロスポーツチーム連絡会と連携し、学校や地域との交流を通じて地域活性化につなげる取り組みが必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

計画の目標	Ⅲ スポーツ環境の充実
施策名	(11) 既存スポーツ施設等の整備・充実
<b>施策の内容</b> <p>既存施設のさらなる有効活用のため、ソフトとハードの両面から、誰もが利用しやすい施設環境整備に取り組みます。また、施設老朽化に対応し、持続可能なスポーツ環境を提供していくため、施設の適切な維持管理に努めるとともに、将来を見据えた屋外体育施設のあり方の検討を進めます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>老朽化した施設や設備の計画的な修繕、改修工事等を行います。合わせて、バリアフリー化など、老若男女や障害の有無等を問わず、誰もが利用しやすい施設環境整備を進めます。</p>	
<b>具体的な取り組み事項（事務事業）</b> <p>体育施設のあり方や施設改修において、新型コロナウイルス感染症の拡大があったことを踏まえ以下の通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズの多様化やこれからの人口動向なども踏まえ、「立川市体育施設のあり方」を策定した。</li> <li>・老朽化により危険が生じていた陸上競技場のスタンドを解体した。</li> <li>・練成館の中規模改修を実施し老朽化に対応した。</li> <li>・屋外体育施設において、日々巡回を実施し、施設や設備の点検や修繕等を行った。</li> </ul>	
<b>その他の取り組み</b>	
<b>今後の課題（事務局案）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年3月に策定した「立川市体育施設のあり方」の今後の進め方に基づき、屋内体育施設については、「公共施設再編個別計画」に、屋外体育施設については、新たに策定する「屋外体育施設個別管理計画」に基づき、長期的な視点を持ち、体育施設の整備・維持管理に取り組んでいくことが必要です。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(12) 学校施設の有効活用</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>地域における子どもたちの外遊びの場を確保するため、土曜日と日曜日に小学校の校庭や体育館を遊び場として開放しています。また、スポーツ団体に小・中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放することで、スポーツ団体の活動拠点として重要な役割を果たしており、今後も継続します。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>現行の遊び場開放及びスポーツ利用について継続するとともに、現在の利用区分以外の時間帯へも拡大できるよう検討を進めます。</p>	
<b>具体的な取組み事項（事務事業）</b>	
<p>取組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、学校体育施設の火災や老朽化に伴う改修工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その中での取組み状況は以下のとおりである。</p> <p>小学校の校庭や体育館を「遊び場」として開放し、併せて、スポーツ団体に小・中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放している。令和4年度の遊び場利用者は46,717人で、スポーツ利用者は297,489人。</p>	
<b>その他の取組み</b>	
<b>今後の課題（事務局案）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に影響のない範囲で、身近にスポーツ活動ができる場所としての活用を継続していきます。</li> <li>・学校施設を利用するにあたり、より多くの市民が公平に利用できるルールの確立が必要です。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(13) 指導者の育成・確保</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>専門的な知識と指導技術を持った意欲的なスポーツ指導者を育成するため、現在実施している各種指導者育成に関する事業を確実に実施していくとともに、育成された指導者が地域で活躍することができるしくみを関係機関や団体等と構築していきます。</p> <p>また、競技スポーツに限らず、健康づくりなどの幅広い年齢層の方が気軽に取り組める運動に対応する指導者の育成・確保も進めていきます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>① ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会を継続し、地域でのスポーツイベントで正しいラジオ体操の普及を担うラジオ体操指導員を増やします。</p> <p>② 体育協会への補助事業である「運動指導者育成プログラム」講座を継続し、地域スポーツの推進を担う指導者を育成・確保します。</p>	
<b>具体的な取組み事項（事務事業）</b>	
<p>取組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことなどにより、地域の団体の活動も鈍化していたが、その中で以下の通りの取組みを実施した。</p> <p>① 庁内の関係部署と協力し、ラジオ体操指導者講習会を開催した。令和4年度は26人が参加した。</p> <p>② 令和2年度より運動指導者育成事業を体育協会への委託事業とした。1st、2ndの2段階制で地域スポーツの推進を担う指導者の育成を行った</p>	
<b>その他の取組み</b>	
<p>（この欄は空欄です）</p>	
<b>今後の課題（事務局案）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきたラジオ体操指導者講習会や運動指導者育成プログラム修了者の地域における活躍の場につなげるしくみづくりが必要です。</li> <li>学校部活動の地域移行の動向を見据え対応できる指導者育成方針の検討が必要です。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(14) 情報の提供</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>どのような事業も情報が市民に適切に届くことで、利用・活用されます。効率よく広く情報を提供することが重要です。スポーツをしていない人にスポーツをはじめのきっかけづくりも、情報を適時・的確に伝達できることが重要です。情報を伝達したい対象の年齢層や生活環境に合わせて適切に情報を提供していきます。</p>	
<b>具体的な取り組み事項（事務事業）</b>	
<p>取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかったため、情報提供も低調にならざるを得なかったが、以下の通り取り組みを実施した。</p> <p>① 広報「たちかわ」や立川市ホームページ及び立川市体育協会ホームページを活用して、市民大会の各種目の開催、各種スポーツイベント・教室の開催情報を市民に提供している。また、新規のイベントや参加者の多いイベントは、積極的にプレスリリースをしている。</p> <p>② 泉・柴崎両市民体育館には、ポスターの掲示やチラシを配置し、市民体育館を訪れる方々に情報を提供している。</p> <p>③ きらりたちかわ等、他のセクションで発行する情報誌にスポーツ教室等の開催予定を掲載している。また、市内の施設にチラシを配布している。</p>	
<b>その他の取り組み</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>立川市体協だより「スポーツたちかわ」を年2回発行し、スポーツの振興を図っている。</li> </ul>	
<b>今後の課題（事務局案）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズを捉え、必要な情報を必要な対象者に届けられる情報発信を検討する必要があります。</li> <li>スポーツに興味関心が低い市民にも、スポーツに興味関心のきっかけとなるような情報発信を検討する必要があります。</li> </ul>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

施策名	(15) 健康づくり事業の推進
施策の内容	
<p>スポーツは競技として勝敗や記録を目的とすることにとどまらず、健康の保持・増進や介護の予防、地域との絆づくりなど、心身の健康づくりと地域の支えあいにも大きな役割を果たします。このため、引き続き各種事業を実施します。</p>	
<p>また、スポーツに対する高いニーズを活用し、スポーツイベント・各種教室を通じたコミュニティの活性化に結びつけることにも取り組みます。</p>	
<p>さらに、健康づくりに関する事業は、庁内各課で実施しているため、連携体制をつくり、効率的・効果的に事業を実施します。</p>	
<p><b>【取組事項】</b></p>	
<p>① 「体力年齢測定会」を実施し、高齢者や高齢者世代を前にした方に、自己の健康管理や健康の維持・増進の知識を広げることに役立てます。</p>	
<p>② 「体力アップ体操教室」や「小学生姿勢教室」、「初心者ソフトテニス教室」など普段体を動かす機会が少ない市民を対象に開催し、体を動かすことの大切さを啓発します。</p>	
<p>③ あらゆる世代が気軽に取り組めるスポーツ活動として、ウォーキングの機会を提供し、市民の健康増進の機会を増やします。</p>	
<p>④ 子どもから高齢者まで、また普段体を動かす機会の少ない市民にも、体を動かすことの楽しさを感じ、健康づくりに役立ててもらうために実施します。</p>	
<p>⑤ スポーツに関心がない、スポーツをしていない子どもや大人たちに関心を持ってもらい、体力、健康増進に役立ててもらうために、泉市民体育館まつりのスポーツ体験コーナーのさらなる充実を図ります。</p>	
<p>⑥ 40歳以上64歳以下の市民で健康習慣を身に付けたい方や体力の低下が気になる方に、運動指導者や看護師がストレッチ体操を中心とした運動を指導し、心身機能の維持向上を図ります。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 具体的な取り組み事項（事務事業）

取り組み期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したことや、体育施設の老朽化に伴う各種工事の影響があり、計画通りの事業執行ができなかった。その一方で市民の運動不足が指摘され、スポーツと健康のかかわりが一層重要視されるようになった。感染症対策などに考慮し限られた条件の中で以下の通り取り組みを行った。

- ① 令和4年に「体力年齢測定会」を3年ぶりに開催し、基礎体力の維持、向上のきっかけ作りとした。
- ② 「体力アップ体操教室」や「小学生姿勢教室」、「初心者ソフトテニス教室」を実施、高齢者、小学生の親子、テニス初心者の対象ごとに体を動かすことの大切さを啓発する機会とした。
- ③ 令和2年度までは高齢者2万歩ハイクと市民あるけあるけ運動を実施、令和3年度以降は市民あるけあるけ運動を年2回実施しウォーキングの機会を提供した。
- ④ 令和3年度まで、ラジオ体操みんなの体操会を実施した。令和4年度より、市民運動習慣化事業として100トレ運動を実施した。
- ⑤ 泉市民体育館DAYでは、既存のスポーツ以外にもニュースポーツやボルダリングなど楽しみながらできるスポーツを指導付きで体験できる場を提供した。
- ⑥ 体育館の指定管理者により、ストレッチや軽体操の教室を開催し、各自の体力に合った運動機会を提供した。

## その他の取り組み

## 今後の課題（事務局案）

- ・スポーツや運動を通じて健康づくりにつなげる取り組みを検討する必要があります。
- ・スポーツ、医療、介護等、関係するステークホルダーが連携協力して健康づくりにつなげる取り組みの検討が必要です。

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

<b>施策名</b>	<b>(16) オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進</b>
<b>施策の内容</b>	
<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツ参画人口の増加が見込まれています。スポーツを「する」「みる」「ささえる」市民がさらに増えていくよう各種施策を推進します。</p> <p>また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、子どもたちに夢と希望を与えるとともに、国際交流の促進や経済面での効果も生み出すといわれています。このような競技大会のレガシーを次世代に引き継いでいけるよう、さらなるスポーツ振興を進めていきます。</p> <p><b>【取組事項】</b></p> <p>令和3(2021)年夏は、東京2020パラリンピック競技大会が開催されるため、障害者スポーツに対する市民の関心の高まりが見込まれることから、泉・柴崎両市民体育館で障害の有無に関わらず誰もが参加できる、障害者スポーツを継続します。</p> <p>また、市内各所でのイベント等の機会を利用して、障害者スポーツの紹介や体験会を開催し、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。</p>	
<b>具体的な取組事項（事務事業）</b>	
<p>取組期間については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響し、オリンピック・パラリンピック競技会も1年遅れ無観客での開催となったため、計画通りの事業執行とはならなかったが、その中での取組状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020パラリンピック競技大会により、認知された障害者スポーツの一つとしてボッチャの大会・体験会を実施。大会から2チームを市町村ボッチャ大会に派遣し、パラリンピックのレガシー及び障害者スポーツの理解啓発につなげた。</li> <li>・立川市にゆかりの選手がオリンピックに出場したことを契機として、公益財団法人日本近代五種協会と連携し、近代3種やレーザーランの大会を開催した。</li> </ul>	
<b>その他の取組み</b>	
<p>オリンピックやパラリンピック、世界大会やデフリンピックなどに出場したアスリートとのかかわりを通じ、市民のスポーツへの関心を持ってもらう機会とした。</p>	

# 立川市第2次スポーツ推進計画（令和2～6年度）の実施状況と課題

資料2

人数は全て延べ人数

## 今後の課題（事務局案）

- ・立川市にゆかりの選手がオリンピックに出場したことを契機として始まった近代3種大会・レーザーラン大会やボッチャ大会を継続していきます。
- ・立川市ゆかりのアスリートの競技情報や、新たなゆかりのアスリート情報の入手方法と情報発信についての検討が必要です。
- ・東京2020大会などの開催を通じてボランティア活動への参画した市民の新たな活躍の場への誘導するしくみの検討が必要です。